

# 平成26年2月期 決算参考資料

米久株式会社  
(東証一部：2290)

## 1. 当期業績に影響を与えた主な項目

- 1) 原材料価格の高騰に伴い、販売価格の改定を実施
- 2) 食肉相場は豚・牛・鶏の全てにおいて前期を上回る水準で推移
- 3) 採算性を重視した営業活動や相場の回復などにより、食肉事業の収益が改善
- 4) 物流費の削減などにより、販売管理費が減少

## 2. 当期(平成25年3月1日～平成26年2月28日)の連結業績

(単位:百万円)

	平成25年2月期	平成26年2月期	伸び率(%)	前回(2Q)予想
売上高	142,372	144,154	1.3	150,000
営業利益	484	1,989	310.3	2,050
経常利益	322	1,837	469.9	2,000
税引前利益	2	1,756	87,700.0	-
当期純利益	△221	896	-	700
一株当たり当期純利益(円)	△8.64	35.33	-	-
自己資本当期利益率(%)	△0.6	2.4	-	-
総資本事業利益率*(%)	1.6	3.9	-	-

\*総資本事業利益率は事業利益(営業利益+営業外収益)にて算出しております

## 3. 連結業績の推移

(単位:百万円)

	平成22年2月期	平成23年2月期	平成24年2月期	平成25年2月期	平成26年2月期
売上高	168,717	136,049	140,796	142,372	144,154
営業利益	4,387	1,917	1,717	484	1,989
経常利益	4,539	1,999	2,018	322	1,837
税引前利益	8,857	1,943	2,396	2	1,756
当期純利益	2,863	1,220	1,359	△221	896
純資産	37,191	37,756	37,430	36,050	37,349
総資産	61,371	61,262	63,610	61,146	62,834
一株当たり純資産:(円)	1,335.32	1,360.30	1,405.95	1,418.86	1,470.02
一株当たり当期純利益:(円)	100.09	44.04	49.62	△8.64	35.33

#### 4. 報告セグメント別の業績比較

(単位:百万円)

	平成25年2月期		平成26年2月期	
	売上高	営業利益	売上高	営業利益
報告セグメント				
加工品事業	58,692	651	61,469	1,426
食肉事業	80,275	△232	80,546	554
小計	138,968	418	142,016	1,980
その他	3,404	66	2,138	8
連結財務諸表計上額	142,372	484	144,154	1,989

#### 5. 連結子会社一覧

(単位:百万円)

会社名	持分割合 (%)	売上高	総資産	事業内容
米久かがやき(株)	100.0	22,088	6,807	ハム・ソーセージ・デリカ製品の製造
(株)日宏食品	100.0	2,187	642	ソーセージの製造
米久デリカフーズ(株)	100.0	7,515	3,196	冷凍デリカ製品の製造・販売
<b>国内加工品生産会社計</b>		<b>31,791</b>	<b>10,646</b>	
YONEKYU U.S.A.,INC.	100.0	3,159	1,286	ソーセージの製造
<b>海外加工品生産会社計</b>		<b>3,159</b>	<b>1,286</b>	
米久おいしい鶏(株)	100.0	11,343	5,111	鶏肉の生産・加工・販売
(株)マルフジ	100.0	2,535	332	牛肉の加工・販売
アイ・ポーク(株)	100.0	4,231	618	豚肉の加工・販売
大洋ポーク(株)	100.0	3,135	663	豚肉の生産・加工・販売
(農)広島県東部養豚組合	-	1,325	1,001	豚肉の生産
<b>食肉供給会社計</b>		<b>22,570</b>	<b>7,728</b>	
御殿場高原ビール(株)	84.8	1,679	817	地ビールレストランの経営
<b>その他の会社計</b>		<b>1,679</b>	<b>817</b>	
<b>&lt; 連結子会社合計 &gt;</b>		<b>59,201</b>	<b>20,478</b>	

持分法適用関連会社2社

MIY(株)

ときめきファーム(株)

## 6. 当期業績

### (1) 売上高

加工品事業では、ハム等は、ベーコンやローストビーフなどが好調に推移し、全体の売上高は増加いたしました。ソーセージは、主力コンシューマ商品の「御殿場高原あらびきポーク」や「あらびきフランク」の伸長もあり全体の売上高は増加いたしました。デリカは、コンビニエンスストア向けトンカツの販売が好調に推移するとともにハンバーグなどの新商品も寄与し、全体の売上高は増加いたしました。

食肉事業では、鶏肉と牛肉は輸入品の売上が減少した一方で、豚肉は、子会社の大洋ポーク(株)のブランド品である「瀬戸内六穀豚」など、国産品全般が堅調に推移した結果、全体の売上高は増加となりました。

以上の結果、当期の売上高は、加工品事業は、614億69百万円、食肉事業は、売上高が805億46百万円となり全体では前期に比べ17億81百万円増加し、1,441億54百万円(1.3%増)となりました。

### (2) 売上総利益

原材料価格が高騰したものの、加工品の販売価格の改定や、採算改善に関する種々取り組みも奏功し売上総利益は前期に比べ増加しました。

以上の結果、当期の売上総利益は、前期に比べ5億44百万円増加し、198億28百万円(2.8%増)となりました。

### (3) 販管費、営業利益

物流の効率化などを推し進め、販管費を削減した結果、当期の販管費は、前期に比べ9億59百万円減少の178億39百万円(5.1%減)となりました。

以上の結果、営業利益は、加工品事業で14億26百万円(前期は6億51百万円)、食肉事業で5億54百万円(前期は2億32百万円の損失)となり、全体では15億4百万円増加の19億89百万円(前期は4億84百万円)となりました。

### (4) 営業外損益、経常利益

営業外収益が前期に比べ1億6百万円減少した一方、持分法による投資損益が78百万円改善し、営業外費用は1億16百万円の減少となりました。

以上の結果、当期の経常利益は前期に比べ15億14百万円増加し18億37百万円(前期は3億22百万円)となりました。

### (5) 特別損益、税金等調整前当期純利益、当期純利益

特別利益は、前期に比べ45百万円減少した一方、特別損失は、前期に子会社の売却に伴う損失もあり、2億85百万円減少となりました。

これらの結果、税金等調整前当期純利益は前期に比べ17億54百万円増加し、17億56百万円(前期は2百万円の利益)となりました。また、法人税等は6億36百万円増加しました。

以上の結果、当期の純利益は、8億96百万円(前期は2億21百万円の損失)となりました。

## 7. 次期の主な取組み

- 1) コンビニエンスストア向け対応力を強化
- 2) PB商品を含む加工品の拡販を推進
- 3) 食肉事業の販売を強化、食肉相場の堅調な推移を予想
- 4) 原材料価格の更なる上昇を予想
- 5) 取引の採算改善や経費削減を更に進め収益性を改善

## 8. 次期業績予想

(単位:百万円)

	上 期		通 期	
	金 額	伸び率(%)	金 額	伸び率(%)
売 上 高	73,500	6.3	150,000	4.1
営 業 利 益	650	371.3	2,100	5.6
経 常 利 益	700	835.5	2,200	19.7
当 期 純 利 益	550	-	1,000	11.6
一株当たり当期純利益(円)	21.68	-	39.42	11.6

## 9. 設備投資及び減価償却費

### (1) 設備投資額

(単位:百万円)

		金 額	主な内容
連 結	当期実績	3,018	加工品事業分野の製造設備更新等 1,011 食肉事業分野の鶏肉生産設備及び排水処理設備更新 852
	次期予想	3,560	ハムソー生産設備増強 1,841 米久おいしい鶏 鶏舎建物等 405 大洋ポーク肥育豚舎新設 180

### (2) 減価償却費

(単位:百万円)

		金 額
連 結	当期実績	2,201
	次期予想	2,000